

Q2.実施して良かったことや工夫したことは何ですか？

住宅事業本部	1,000名を超える組織のため、代表者による推進体制を構築し、各部署が主体的に関与できる環境を整えました。役員・部課長・代表者約40名から多くの建設的な意見を出してもらえたことで、その意見を踏まえた方針を形にすることができました。また、各社・各本部とも連携しながら、グループとして必要なことをボトムアップで提案し、実現することができたことも非常に良かった点でした。
都市開発第一事業本部	イントラでの情報集約やマップ作成により、理解促進と混乱防止を図りました。ヒアリングを通じた課題の早期把握や、事前の運用整理により、移転後の業務混乱を最小化できた点が有効でした。
海外事業本部	事前に新ルールを適用することで、移転後の混乱を抑制しました。物流や備品管理の効率化により業務負担を軽減し、現場に無理のない形で新オフィスへの適応を進められた点が有効でした。
開発企画本部	対面での部会・課会を通じて、現場メンバーとのコミュニケーションを強化しました。紙削減による効率化に加え、推進メンバー主体で意見を吸い上げる体制が、スムーズな意思決定に寄与しました。
事業創発本部	カフェスペースを活用することで、参加しやすく意見が出やすい環境を実現しました。従来の形式にとらわれず、場の特性を活かした運営が、組織の一体感醸成にも寄与したと感じています。
野村不動産コマース	情報を自社向けに再整理して発信することで、理解しやすい環境を整備しました。イントラの構造化により必要な情報へ迅速にアクセスでき、移転対応の効率化に寄与しました。
野村不動産ホテルズ	ハマトラによる事前検証が有効で、運用案を実践的に確認できました。複数パターンの試行により、最適な運用を見極められた点が移転成功に大きく寄与しました。
野村不動産投資顧問	情報発信の迅速化と継続を徹底し、準備は常に前倒しで対応しました。利用者目線を重視し、短文・図解中心の分かりやすい発信を実施。フリーアドレスは移転後の実証期間を設け、社員の声を反映して判断しました。また移転後も不便点の把握を続け、設備面の課題は事前内覧で判断し、移転前に対応しました。
野村不動産ソリューションズ	早期から各部署の状況を把握し、座席やゾーニングの最適化に反映するように意識して取り組みました。情報発信やペーパーレス推進を計画的に進めたことで、移転準備と意識醸成を同時に進めることができました。
野村不動産パートナーズ	仮移転段階から段階的にフリーアドレスを導入したことで、スムーズな移行が実現しました。共用エリアの設計や柔軟な働き方の検討が、組織横断のコミュニケーション促進にもつながりました。